

蔵書目その十 邦人印譜 その二

中野, 三敏
九州大学教授

<https://doi.org/10.15017/10480>

出版情報 : 文献探究. 14, pp.50-59, 1984-06-15. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :



蔵書目その十邦人印譜その二

中野三敏

五十一、宣和集古印史(糸)

刊単

半紙本二卷二冊。原装。水色表紙。餘延年復篆。見返し中央に「宣和集古印史」右に「餘延年復篆／平東忠／邨美成／同校」。左に「張府書鋪東壁堂印」。寛政八年小春下沈雪斎曾老選の序。寛政九年閏七月岡田挺之序。享和元年三月磯谷正卿序。初冊内題に「宣和集古印史卷之二／王印第三計四有七／餘延年復篆／平東忠／邨美成／全校」。二冊目内題に「君印第四計五有二」。奥付「宣和集古印史復篆／王君公之部全二卷 出来／侯 之部全一卷 出来／(墨格二行分)／附録漢魏印鈕図 嗣出／千文印數復篆全二卷 嗣出／吳氏印譜復篆全一卷 嗣出／皆清印譜 全一卷 出来／寛政丁巳秋 張府東壁書房」。本文梓及び卦は岱緒摺り。

※本書は奥付に言う「王君公之部全二卷」というに当り、侯之部一卷は未見。奥付は寛政丁巳(九年)とあるが、磯谷正卿の序が享和元年成ゆえ、それ以後の刊か。模刻。

五十二、笠澤印譜(内)

刊単

大本一冊。共紙表紙。田良菴刻。寛政十年仲冬芸窓癡仙序印文「掘越癡仙」。内題「笠澤印譜／笠澤 田良菴義刀／釋大機兼聖／石黄中通理／源廣誠子行／橘正爵伯行／藤成象子化／同校」。釈文墨書。私印集。

※世六「良菴印譜」の続。

五十三、九華仙象(序)

刊単

中本一冊。原装。薄茶表紙。田燠之刻。寛政十一年十一月海西源新煥之甫自序。釈文墨書。私印集。
※「石城唱和集」坤巻の亀井幻翁の詩の引に「秋月田燠之自号九華」とあり。本書印面にも原農平、大輝竺瑞、西原輔(横江)等の筑前諸氏の姓名が見え、かえ、刻者は秋月藩士か。

五十四、拾翠印教(内)

刊単

中本二卷二冊。原装。緑色紋襪箋表紙。橘正爵刻。享和元年小春多賀谷向陵序。内題「拾翠印教／橘正爵義鶴」。柱下部に「拾翠館」と刻す。釈文無し。私印集。
※向陵序中に「右題剛山印譜之首」とあり、外題を「剛山印譜」というか。次の「拾翠館印譜」内題に批れば橘正爵は号剛山。五十二「笠澤印譜」に校者として名あり。

五十五、拾翠館印譜(内)

刊単

半紙本二卷一冊。改装。緑色布目表紙。橘正爵刻。題簽後補「拾翠印譜 上下」墨書。序跋等無し。内題「拾翠館印譜／剛山 橘正爵義刀」。釈文無し。私印集。
※本書刊年不明なるも前掲「拾翠印教」と一連のもの故、こゝに収める。

五十六、名人游戲印譜(扉)

稿単

半紙本一冊。原装。薄茶表紙。豊水摹刻。外題は表紙に「

雲光澤影」と打付書。扉に「名人游戲／印譜」と墨書。内題無し。文化六年夏豊水蘆洲令跋。紙文墨書。私印集。

※豊水自跋に、師林谷山人西遊の際に所得の諸印を臨摹して刻したものである。

五十七、豊水先生印譜(扇) 稿単

大本一冊。改装、洪引き表紙。杖野閑願刻。扉中央に「豊水先生印譜」と墨書。次丁に「杖野閑願刻」と墨書。巻末に「文化庚午暮秋／杖野閑斂珍藏」と墨書。紙文無し。私印集。

※杖野閑願は大坂の印人竹原豊水の印社の同人なる事、次掲の「豊水同人印譜」中にその名ありて知る。本書は即ち豊水刻印を閑願が摹刻せしものか。

五十八、豊水同人印譜(仮) 刊集

大本二冊。原裝。薄茶表紙、康熙綴下。豊水印社同人諸氏刻。小竹斎序。文化八年二月金谷興詩序。同年二月葛陵山人跋。内題無し。梓及び紙文は緑色摺り。私印集。園田湖城旧蔵。

※本書、序題内題等無し。旧蔵者所製の帙に「豊水同人印譜」の外題あり、それに従う。又同帙見返しに「竹原豊水、名吉、守孟榮、豊水其號、大阪人、世業醫、学書題陶齋有盛名又善篆刻所著耽古堂印譜、文政五年九月十九日歿」と旧蔵者識語あり。集中印人名は養瀧田龍、少林叙追淳、杖野閑願、猪山内祇辟、雨亭阮忠、西郡高堅、桃林阮信、東離竹興、東邸武徒、蘭坡中包、東内廣義、玉峯雲瑠の十二氏。葛陵跋文中に「友人豊水示印譜一卷曰。是我社徒戰鋒之跡。務去摹擬而尚新造意」云々。

五十九、擬古印譜(外) 刊単

半紙本二卷二冊。原裝。薄茶表紙。源龍澤刻。文化十一年二月原文龜序。内題「擬古印譜卷之上(下)」／信陽 源龍澤藏。柱記下部に「優游閣蔵」と刻す。序、梓、紙文、柱刻皆藍摺り。私印集。

※刻者源龍澤は守山公源頼寛の子頼行。戸崎淡園に師事すと。匠匠原文龜序に言う。

六十、擬古印譜(内) 刊単

半紙本上巻一冊のみ存。原裝。茶色表紙。源龍澤刻。原文龜序。内題「擬古印譜卷之上」／信陽 源龍澤藏。私印集。

※本書は刊年不明なると前掲五十九の「擬古印譜」と一連の物なるべく、こゝに収める。印文は前掲書所収印と同一のものが多いが、版式は一変して、本書は序、梓、紙文共に墨摺りとなり。柱記は無い。又、前書が各丁表のみに四顆づゝ捺印する所、本書では丁の表裏に四顆づゝとなり。序も異文。

六十一、八堂印譜(序) 稿単

半紙本二卷二冊。原裝。黄色表紙。巻一は矢野八堂刻、巻二は松六巻刻。文化十三年正月文園田秀序。内題「巻之一」／八堂 矢野健徳齋／義刻。「巻之二」／六巻 松好典義刻。紙文墨書。私印集。

※田文園序に八堂は西條藩儒、浪華前川虚舟に師事。六巻は八堂に師事すという。巻之一末に虚舟家の二印あり。

六十二、石雲斎印譜(見返し) 刊単

中本一冊。原裝。茶色表紙。平文尉刻。見返し中央に「石雲齋印譜」右に「飛陽旭亭先生義刀」左に「能州城城甫」／粵中西有斐／輯。寛政二年九月山本北山撰文。文政二年六

月小西有斐書の序。文政二年夏大野鼎序。同年夏赤田臥牛序。内題「印譜／雙田石雲齋平約文蔚義刻」。小塚之則跋。裏表返しに「門人／能七尾礪城庸／畧富山西有斐／輯」。柱記下部に「旭亭感」と刻す。叙文墨書。私印集。裏表紙に「文政九年得之／飛州高山第吉街／蘭佩堂主人慎齋感書」と墨筆識語あり。

六三、〔梅のしるべ〕 刊集

横本一冊。原裝。縹色表紙。題簽欠。刻者不詳。うとり巻鶴翁鬘山人序。文政十一年十一月鈴木奇松跋。奥付「校考／大野政里／常盤園左琴／編輯 糸屋松生」。俳諧点印集。※文政当時浪花俳諧宗匠連の点印を集めたもの。大黒巻から芦丸家に至る廿六家。本書題簽を欠き、書名不詳なり。序文末に「いとすほしく魁して梅のしるべする此冊子のいと口を」云々とあれば、「梅のしるべ」か。

六四、半山楼印譜（外） 刊単

中本一冊。原裝。薄茶表紙。田春耕刻。題簽二重枠「半山楼印譜 全」。見返し・中央に「半山楼印譜」、右上に「瓊浦田春耕著」。道光六年（文政九）四月朱柳橋序。嘉慶二十年（文化十二）三月静岩鄧炳序。内題「半山楼印譜／瓊浦春耕源實修義 男寶徳輯」。張袂琴跋。枠及び柱記は青墨摺り。叙文は墨摺り。私印集。

六五、一條鐵（莊） 刊単

小本一冊。原裝。茶色表紙。林谷山人刻。題簽後補。墨書。「林谷山人歸去來印譜」。夏雨村題言。鴨齋序。金琴江題詩。文政十年十二月小林信小引。文政十二年九月魏湘和跋。林谷自跋。柱記「一條鐵 林谷山房」。叙文墨書。

六六、玄々菟印譜（外） 刊単

半紙本二卷二冊。原裝。水色表紙。原帙存。帙にも題簽あり。田辺玄々刻。天尺軒題詩。文政十二年二月藤原穿受序。同年臘月沙門越樽序。丹嶮題詩。十愚空題頌。天保元年臘月秋竹隱序。叙智毅序。文政十一年冬猪飼彦博序。松本憲山序。文政十一年二月頼山陽序。文政十二年春中島棕隱序。天保元年春佐藤一齋序。同年十一月朝川鼎序。朱庵題詩。天保元年三千題詩。卷菱湖題詩。大窪詩仙題詩。文政十年磨島松南序。源竹忠序。文政十二年春波多淑序。同年二月大江成美序。文政十一年春玄々自識。道光十一年（天保二）年夏沈淳齋跋。道光十一年（文政十一）年三月江芸閣題詩。同年夏朱柳橋題頌。道光十一年（天保元）年春月頼子英跋。同年同月頼遠山跋。同年二月周安泉跋。頼春平題詩。文政十年秋沢大宮跋。文政十一年正月貴名海屋跋。梅辻春樵題詩。文政十一年二月篠崎弼跋。岡崎元執題詩。文政十一年冬仁科幹跋。同年小春小石龍跋。文政十二年嘉平月紀赤水跋。天保元年五月齋藤謙跋。同年同月村瀬藤城跋。文政十二年十月清水雷首跋。天保元年八月秋五臺跋。文政十一年正月頼立齋跋。履堂跋。文政十一年春井上間季跋。天保元年四月田辺玄々自跋。奥付「天保二年半卯春日／發祥／序跋彫刻大坂谷清好／書肆宗師御幸町菱屋孫兵衛／江戸日本橋須原屋茂兵衛／大阪心齋橋加賀屋善藏／尾張名古屋永樂屋東四郎」。刊記横に「楓竹松園蔵板」の大朱印あり。柱記「玄々菟印譜 楓竹松園蔵」。枠及び柱記は青墨摺り。叙文は代赭摺り。私印集。

六十七、曼蝶軒印譜（内） 刊単

※序跋類四十五則。恐らくは近世を通じて最多なるべし。中本一冊。原裝。縹色表紙。外題無し。柴山東巖刻。見返

し黄唐紙。中央に「愛蝶軒印譜」。右に「東巒先生篆鏡」。左に「玉山房梓」。秦鼎序。天保五年八月六橋釣雙序。内題「愛蝶軒印譜」尾張。柴山春先之篆鏡。秦鼎跋。奥付「書林」。江戸日本橋一丁目。復原屋茂兵衛。京寺町通松原上九町。

菱屋治兵衛。大坂心音橋唐物町。河内屋太助。名古屋本町七丁目。永樂屋東四郎。同本町九丁目。木屋久兵衛印(玉山房)。紙文無し。私印集。

※秦鼎跋の後に「漢委奴国王」印を捺しあり。鼎跋に十余年前筑前に出土せしこと。今又この印譜に題せんとするに当り筑人大熊靖蔵よりその印影を贈られたと述べる。

六十八、錫助譜(外) 稿単
中本一冊。仮綴。薄茶表紙。丹羽千春刻。天保十年秋西晋序。同年九月丹羽千春自跋。紙文墨書。私印集。

※西晋序に「余友煙侗子自少好篆刻。君齡猶未壯」とあり。丹羽千春号煙侗。また印文中に「張藩丹羽勳字子魁號盤桓子」あり。千春即ち丹羽盤桓子なるか。

六十九、既白資問(序) 稿単
中本二卷二冊。改装。白茶表紙。既白陳人園篆刻。題簽後補。「既白陳人篆刻上(下)」。弘化四年十二月尾藩儒時石林三籟序。序題「既白資問序」。本文初頭に「浪筆頭陀既白陳人園篆刻」。梓朱摺り。紙文墨書。私印集。

七十、詩鈔印譜(見返) 刊單
半紙本一冊。原裝。茶色表紙。題簽欠。細川林谷刻。見返し雲英引き印色地紙。中央に「詩鈔印譜」。右に「林谷山人著」。左に「有竹家藏板印」。内題「林谷詩鈔」。細川深水壺著。男。訶子玄。校。弘化三年夏阿部綱洲序。嘉永元年野田逸序。弘化二年夏昌谷碩序。弘化四年逸見敦序。

嘉永元年四月磐梯老人序。若溪撰林谷自画像。牧古愚題詩。詩鈔本文(十一丁)。弘化三年九月篠崎小竹跋。江芸閣題詩(一條鐵)。印譜(七丁)。嘉永元年仙滅日逢韻跋。紙文無し。私印集。

七十一、西游印譜(外) 刊單
半紙本一冊。原裝。金砂子散らし白紙表紙。題簽單梓金砂子散らし黄色地紙。西游印譜 全。後人補綴。色厚紙覆表紙附。細川林齋刻。見返し「林齋散人篆刻」。西游印譜。有竹家藏。安政二年夏板倉勝明序。嘉永三年四月篠崎小竹序。嘉永四年七月頼立齋序。林齋自跋。柱記「西游印譜」。紙文無し。私印集。

七十二、(笠山印譜) 稿単
中型折帖一帖。原裝。白茶表紙。外題無し。安政六年七月土井整牙題言。同年四月徳孝辻夫跋。紙文墨書。印面切貼り。私印集。

※跋文中に「是笠山篆刻之持論也今觀此譜布篆運刀不負其所言」とあり。笠山の印譜なること知る。印文中河野鉄鬼。河村竹坡。広瀬範。土井有恪等の姓字印あり。笠山は姓中西氏。名は成矩。通称大真。明治十年十一月没。八十四才と竹清稿「伊勢と篆刻家」にある。

七十三、松年私印譜(外) 稿集
小本二卷二冊。原裝。黄色表紙。外題表紙左肩打付書「松年私印譜」。柱に「松年館」と刻する用紙を用い、梓及び柱記は代摺摺り。紙文墨書。印面切貼り。各印刻者名を墨書。また「万延庚申(元年)玄冬下浣」。辛酉(文久元年)暮夏上浣」等の刻年月を記すもの間々あり。最下限は文久元年。私印集。竹清旧蔵。

七十四、(笠山印譜) 稿単
中本一冊。原裝。白茶表紙。外題無し。安政六年七月土井整牙題言。同年四月徳孝辻夫跋。紙文墨書。印面切貼り。私印集。

※跋文中に「是笠山篆刻之持論也今觀此譜布篆運刀不負其所言」とあり。笠山の印譜なること知る。印文中河野鉄鬼。河村竹坡。広瀬範。土井有恪等の姓字印あり。笠山は姓中西氏。名は成矩。通称大真。明治十年十一月没。八十四才と竹清稿「伊勢と篆刻家」にある。

七十五、松年私印譜(外) 稿集
小本二卷二冊。原裝。黄色表紙。外題表紙左肩打付書「松年私印譜」。柱に「松年館」と刻する用紙を用い、梓及び柱記は代摺摺り。紙文墨書。印面切貼り。各印刻者名を墨書。また「万延庚申(元年)玄冬下浣」。辛酉(文久元年)暮夏上浣」等の刻年月を記すもの間々あり。最下限は文久元年。私印集。竹清旧蔵。

七十六、(笠山印譜) 稿単
中本一冊。原裝。白茶表紙。外題無し。安政六年七月土井整牙題言。同年四月徳孝辻夫跋。紙文墨書。印面切貼り。私印集。

※跋文中に「是笠山篆刻之持論也今觀此譜布篆運刀不負其所言」とあり。笠山の印譜なること知る。印文中河野鉄鬼。河村竹坡。広瀬範。土井有恪等の姓字印あり。笠山は姓中西氏。名は成矩。通称大真。明治十年十一月没。八十四才と竹清稿「伊勢と篆刻家」にある。

七十七、松年私印譜(外) 稿集
小本二卷二冊。原裝。黄色表紙。外題表紙左肩打付書「松年私印譜」。柱に「松年館」と刻する用紙を用い、梓及び柱記は代摺摺り。紙文墨書。印面切貼り。各印刻者名を墨書。また「万延庚申(元年)玄冬下浣」。辛酉(文久元年)暮夏上浣」等の刻年月を記すもの間々あり。最下限は文久元年。私印集。竹清旧蔵。

七十八、(笠山印譜) 稿単
中本一冊。原裝。白茶表紙。外題無し。安政六年七月土井整牙題言。同年四月徳孝辻夫跋。紙文墨書。印面切貼り。私印集。

※伊勢外官權宜松本偉彦号松年の私印集。刻者は様堂（河部井）、端隠（福井）、紅於（上部）、溪雲、栗齋（久野）、藏六（浜村）、蠟卷（小俣）、等々。松年は後五等また香雪と号し、松木武彦の男。従七位。大正六年十二月歿。七十四と「伊勢と義刻家」にあり。

七十四、**疎影軒印譜**（外） 刊 単

小本一冊。原裝、薄茶表紙。コヨリ綴じ。外題表紙摺り付け、単梓「疎影軒印譜 完」。樺村散人刻。文久二年夏粟晴題言。文久三年秋樺村散人自跋。釈文無し。私印集。※粟晴題言の引に「吾友子栗」とあり。自跋に「四十年某等閑度」の句あり。

七十五、**小雅堂印則** 刊 単

中本一冊。表紙欠。平田忠輔刻。慶応四年六月霞洞自跋。梓代摺摺り。姓名、臣名、名、姓字、字、姓名字相合。家音東、収蔵、屋扁、道號の十一項に分かつてその正式の印体を示す。

※表紙、序を欠くも別本により音名、刻者を知り得る。

七十六、**芙蓉先生遺叢**（題言） 刊 単

中本一冊。原裝、黄色紋臘箋表紙。康熙綴じ。高芙蓉刻。中井敬所編。天明五年冬應孝画芙蓉先生像。源元凱讚。増田立所臨摹。大典謄芙蓉墓碣銘。明治十六年小野湖山序。同年三月中井敬所序。釈文無し。私印集。

※敬所序に「今茲癸未（明治十六年）四月廿四日當先生一百年之忌辰乃就諸同好鬼翰遺叢備余所収蔵者作此譜」とあり。

七十七、**（羽倉可亭印譜）** 刊 単

小本二卷二冊。原裝、黄色表紙。康熙綴じ。外題無し。八十八翁可亭自題。明治廿九年十月羽倉良豊跋。明治廿一年

七月三因幽眠撰墓誌。明治廿九年秋欽堂題言。同年十一月静居知文序。同年八月富岡鐵齋序。可亭翁肖像写真。可亭詩鈔（六丁）。印は「一夜刻」/「春夜早桃李園序」と題するものと「芸窗雅事」と題する私印集と二部にわかれる。

七十八、**定武榊印叢**（外） 刊 集

中本一冊。原裝、茶色菊唐草書様表紙。康熙綴じ。北山橘菴原輯。多治見春谷編。題簽単梓「定武榊印叢 鐵齋」。明治四十一年春南岳恒序。鐵齋題言。明治四十一年冬春谷写図。内題「定武榊印叢 / 平野 夢筆園藏」。明治四十一年十月多治見春谷跋。奥付「明治四十二年二月十日出版 / 全 四十二年二月十六日發行 / 非賣品 / 編纂者 多治見久太郎印 / 大阪府下東成郡平野郷町 / 印刷者 辻本朝治郎印 / 京都市寺町丸太町下ル / 下御堂前町十五番屋敷」。柱に「夢筆園藏」。

※跋に「定武榊遺愛印章五十三顆北山橘菴先生所贈吾祖」とあり、各印面の下に刻者名を墨刷りにし、釈文付無い。刻者は広沢、修来、悟心、芙蓉、東阜、煥章、東岳、天池、惺池、祇南海、桃洞公子、烏山輔寛、大雅堂、斗南、東亭、葛子琴、岡石章、兼葭堂、銅印、玉印、水晶印、柳里恭印、烏石印 以上。

七十九、**芙蓉山房私印譜**（内） 刊 集

半紙本一冊。原裝、黄色紋臘箋表紙。題簽無し。見返し、中央に「芙蓉軒私印譜」。巻末に「芙蓉先生墓石二種」と題し、京都一心院建の寿藏碑と東京無量院建の墓碑の拓本を写真で示す。後語半丁活版。

※本書に後語によれば大正二年、芙蓉一百廿年に当り、天明五年の「芙蓉山房私印譜」（前掲四十一）を影印し、墓碣銘拓本写真を附して二百部を作り、同好にわかつという。

八十、日本麦酒集(内) 刊集
影印というも字裏を板下として新刻せしものか。

中本一冊・原裝・茶色表紙・康熙綴じ・題簽無し・松丸東
魚編・内題「日本麦酒集／松丸長子遺稿」・昭和廿九年七
月天彭山人題言。巻末に「東魚文版」・柱記「日本麦酒集」
詩四丁・印譜十二丁・私印集。

※題言に「東魚印人頃為日本麥酒會社立案鳴詩印名象各十二
人咏且刻麥酒一年醉中之趣毎月連載文藝春秋以筆一世之目
云々とあり。即ち詩は今関天彭、三浦英蘭、松本芳翠、土
屋竹雨、平尾孤往、眞田莖生、笠井南村、川村驥山、柳井
寒泉、水野風外、服部擔風の十一氏による十五首を録し、
印は石井雙石、保孝三、小林斗盞、松丸東魚、中村蘭台、
高畑翠石、園田湖城、内藤杏石、北村春歩、生井子華、梅
丁齋、佐藤桃卷の十二氏が前掲詩中の佳句を摘出して印刻
したその。東魚刻製の木活字によつて排印されており、東
魚文版と称して、以後統刊を試みられる。製本、内容共に
戦後出版物中雅なるものの最右翼と称するに足る。因みに
本書成刊の披露会は昭和二十九年九月十六日、銀座七丁目
銀座ビヤホールに於てとり行なわれた。

八十一、雅印藏印影集(外) 刊集

小本一冊・原裝・梳返し紙表紙・磯部鎮雄編・扉題「雅印
／藏印／印影集／昭和／辛卯刊」・緒言末に「昭和二十六
年四月 編者敬白」・奥付に「雅印藏印印影集 限定壹百
部／昭和二十六年五月十五日成本 非賣品／編者 磯部鎮
雄印／東京都北区志茂町一丁目八一二 南洋堂刊」・柱記
「雅印藏印影集 南洋堂刊」・藏書印集・油印。

※田結莊金次、石曾根民郎、磯ヶ谷紫江、佐野英山等十九氏

八十二、質本屋大惣藏書印譜(外) 刊
の雅印、藏書印を集めた物。

中本一冊・原裝・卵色表紙・伊藤健編・外題表紙摺付・奥
付「昭和四十五年三月一日發行／限定八部非売本／編者・
發行者／ナゴヤ藤園堂」。

※巻頭に大惣店前の図の色摺り木版屏絵あり。内容は大惣の
質本印十八種を辛丁に二印づゝ印影切貼り、墨印十二種は
藤園堂仕入れ本中に混在せし紙片に大惣墨印を並捺したる
物あり。一種を八度づゝ捺するを以て、現物を切り貼りす
るに八部しか出来ず、即ち限定八部本なる所以。朱印は当
時大惣後裔江口家に残りありし印影を捺したるもの。以上
藤園堂主直談。

以下成立年、刊年未詳のもの

八十三、一斛珠(内) 刊單

極小本一冊(巻下のみ存)・原裝・鼠茶色表紙・為居士
刻・内題「一斛珠下／為居士篆」・跋末に「竹隱居士記」
柱記「一斛珠 ○望岳亭」・梓、柱記、叙文皆監摺り。私
印集。

※跋文「淵容潜織而奇功精絶矣此集自深入佳方比諸海内之八
斗亦無為學步於邯鄲也以為夫不出於人間則豈非遺珠哉竹
隱居士記」・刊年不明なるも板式より見て室曆前後の刊か。
八十四、笠沢印譜(内) 刊單

半紙本二卷二冊・原裝・茶色表紙・外題「笠澤印譜 乾(地)
」と墨筆打付者。田中良菴刻・内題「笠澤印譜／笠澤
田良菴 義刀／門人／釋大機兼堅／藤益明順鹿／石黄中

通理／源幸廣子行／源廣誠子行／同校。・釈文墨書。私印集。

※本書は、廿六、五十二の統編。巻頭一丁後補紙に墨筆識語あり。田中良菴名正容字叔道號笠澤常州笠間藩醫住江戸性印癖跡永手常篆刻最得速成之妙安永四年立志暫刻一萬方既而成自謂年未不惑雙眸亦不衰欲更刻萬顆而乞其技者日接踵毫無所倦遂刻四萬餘顆語亦隨成巨冊寬政六年孟春罹災友人往弔之良菴晒曰祝融氏能使我窮而不能使我無手指也萬顆之如俯拾芥耳。享和二年以身體之名稱配姓名字號刻教印作語行於世。

八十五、龍眠山人印譜(外)

稿集

大本一冊・原裝。黄色表紙。題簽左肩無枠「龍眠山人印譜山人全」と墨書。全廿七丁。序跋等無し。枠のみ摺物。釈文墨書。用印集。

※龍眠山人、姓中川、名煥、純菴と号し、晩に仙安と号す。若狭候江戸詰医官。書を善くす。蘭学者中川浮庵の父。「広沢翁刀」と注記する印二顆あり。小川武彦名所恵。

八十六、膝益通印譜(外)

稿単

大本二卷二冊・原裝。紺表紙。題簽左肩無枠「膝益通印譜乾(坤)」と墨書。全百十三丁。序跋等無し。枠首墨摺り。釈文墨書。用印集。

※伊藤益通、号華岡、別号而肥、字子行。容衆堂、蕉石居。尚古軒、心齋、無事菴、志古棒等の号を拾い得る。南勢入。広沢及び鳳岡に字び書家として立つ。安永五年十一月歿。六十八才。右印譜は華岡所用印集なるも自刻か。華岡略伝は三村竹清著「伊勢と篆刻家」にあり。

八十七、藤正恕印稿(外)

稿集

大本一冊・原裝。水色紋臘箋表紙。題簽左肩無枠「藤正恕印稿」と墨書。全十七丁。無枠。釈文墨書。序跋等無し。用印集。

※藤正恕なる者未詳。印文により成瀬氏、字子宥。枝枿館、藤光亭、知足斎等の姓氏字号を知り得る。尚刻者名として小森豫一郎、古川教馬等の名あり。寛政前後の成か。

八十八、大慈公印譜(外)

稿集

半紙本一冊。改裝。茶色布目表紙。題簽後補子持枠に「大慈公印譜」と墨書。扉題、中央に「大慈公印譜」と墨書。その下に「修史所印」の朱印あり。右に「生田氏ノ遺篋ニ得テ編次セリ。修史所」と墨書。左に「無名氏印譜附」と朱書。扉裏に「此レ侍臣生田齋ノ遺篋ヲ東台山下ノ古木屋ニ獲テ輯綴セル所也大正三年七月廿一日印(銅牛)」。臨翠軒仰松軒亦大慈公ノ號ナルニ似タリ而モ今其印影ヲ見ルヲ得ガルヲ憾トス印(銅牛)」と朱書あり。全六十四丁。(内「大慈公印譜」五十五丁、無名氏印譜九丁)。「無名氏印譜」は中扉裏に「無名氏印譜(伯爵有馬家修史所)」と墨書。裏に「寶曆明和ノ間我江戸ノ藩邸ニ生田氏アリテ印刻ヲ善クセシニ似タリ其師ハ蓋シ長崎ノ伯民ニシテ石印集義一書ヲ唯一ノ參考トセリ印(銅牛)」と朱書。無枠。用印集。

※大慈公付久留米藩主七代有馬頼種公。朱書識語の筆者銅牛は有馬家修史所主任樋口銅牛。銅牛は筑後に生れ、朝日新聞社員となり漱石とも親交あり。金石文・印譜に造詣深く著書あり。印影は皆切り貼りし、隨所に銅牛の朱註ありて「大慈公筆」「拾機算法ノ筆者豊田文景ノ仮託ナルカ舌カハ大慈公自筆ノ印刻下命ノ二書片大ニ參考トスルニ足ラン」

などと記す。遊印集の末に「丙子春二月瓊浦源逸伯民篆刻於雕虫館」と墨書せる紙片を切り貼りし、その横に銅牛の朱筆にて「譜中釋文アルモノ恐ラクハ伯民ノ刻ナラン」と記す。右紙片は伯民自筆なるべく、即ち天急公印の多くは伯民刻か。伯民は清水氏。宝暦六年刊「雕虫館印譜」あり（前掲廿三）。ついで十一丁に及ぶ俳諧点式印譜あり、これも頼復公所用なるべし。

八十九、写山楼印譜（外） 稿集

大本一冊・原裝・更紗紙表紙・題簽左肩無枠「寫山楼印譜」と墨書。扉左肩に「寫山楼印譜 總六十顆 紅藍印十顆 榮堂彫刻」と墨書。全六丁・釈文墨書。用印集。相見香雨翁旧蔵。

※麓谷、文晁、文一、舜英、東堤等の用印集。榮堂用印も十顆あり。

九十、雙菴小俣翁印譜（外） 稿集

半紙本三冊・原裝・緑色布目表紙・康熙綴じ。表紙左肩に朱筆で「栗斎印譜 一（二・三）」と打付書。全二十七丁。序跋等無し。柱下部に「敲氷園」と刻す。枠及び柱刻は緑色摺り。釈文墨書。一冊目に切り取り多し。

※雙菴は伊勢の人。味噌屋を営み、代々外宮の神樂職を勤む。篆刻は芙蓉門の源惟良に学ぶ。天保十一年没。七十七才。伊勢印人の尤。三村竹清「伊勢と篆刻家」に詳伝あり。

九十一、至誠堂威印選集（外） 稿集

大本一冊・改装。茶色模様紙表紙。題簽後補左肩無枠「至誠堂威印選集 附山本竹雲印影」と墨書。全五十丁。序跋等無し。枠のみ薄茶色摺り。釈文無し。印材注記若干有り。集中「以下十四顆山本竹雲篆刀」と墨書するものあり。

※至誠堂は未詳。印面に「中島至誠堂章」とあるものあり。又、「嘉永己酉八十翁」「明治二十一年七十翁」等の印あり。

九十二、平々凡々四十印（外） 刊集

大本一冊・原裝。白茶表紙・康熙綴じ。三村竹清編。題簽無し。扉中央に「平々凡々四十印」と墨書。柱表に「竹清」と刻す。全三十八丁。序跋釈文無し。

※編者竹清が当時の印人に「平々凡々の印文を嘯し、竹清自身を含めて三十八名の所刻四十印を編したるもの。明治四十年頃からとりかゝり、昭和二十五、六年頃に編を終えたりしい。「三村竹清集」巻五に影印。印人は捨處、香草、香遠、藏六、寒山、淡水、蔚堂、五峯、梓石、石農、襟所、惺堂、星石等。

九十三、諸名家古銅印譜（内） 稿集

半紙本一冊・改装。茶色表紙。大江玄圃編。内題「諸名家古銅印譜／平安 大江實衡維主輯」。全三十七丁。枠のみ摺物。釈文等墨書。銅印及び大和古印集。

※銅印は凡て更捺にて五十九顆。大和古印古官印は殆ど手摹によるもの四十六顆を収める。銅印は釈文・鈕・現藏者名を墨書。明和期京坂又人間に銅印収集癖が流行したことは前掲「古銅印彙」（廿二）や「古鑄百印」（廿四）に明らかであるが、大江玄圃も又その癖に染まった。墨書された現藏者名には、古義堂、皆川伯恭、源道脚、熊谷氏、金龍道人、岡崎氏、江村孔均、岡龍洲、関南仲、藤井徳圃、安子深、三上氏等の名あり。

九十四、芙蓉山房印譜（外） 稿集

大本一冊・改装。絹表紙。題簽左肩。青墨子持枠「芙蓉山

房印譜」と墨書。全十四丁。序跋等なし。印面は切り貼り。紙文墨書。末に「池憲藏」と墨書。私印集。

※印文には「浄復閣中」「皆川憲」「藤貞幹印」「應考」「若冲」「合離之印」「柴邦彦」「斗米菴」「葦蘿鈞徒」等あり。外題に言う如く高芙蓉所刻印を池憲なる者の輯めたものとして誤るまい。池憲は未詳。李元植氏所恵。

九十五、芙蓉山房印譜(外) 稿 単

半紙本二卷二冊。原装。薄茶刷毛目表紙。康熙綴じ。題簽左肩無枠「芙蓉山房印譜 兒」と墨書。内題「芙蓉山房印譜」甲斐高孟彫孺皮表紙。目錄丁のみ毎丁ノドに「下島姓」と刻する用紙を用いる。序跋等無し。紙文墨書。印文は凡て薄様紙に手書したものを切り貼り。

※下島氏による芙蓉刻印の摹写本らしいが、下島氏なる者未詳。幕末明治の成か。

九十六、龍淵印譜(内) 稿 単

大本一冊。原装。薄茶表紙。題簽板刻左肩。単枠「龍淵印譜」。河田龍淵刻。内題「龍淵印譜」龍淵河通位義刀／男三秀河通榮輔」。全三十一丁。紙文墨書。私印集。河尻清潭旧藏。

※河田龍淵は未詳。印風は芙蓉以前の浪華派風のものが多く、宝暦明知期の成か。題簽及び枠は板刻だが、内題及び紙文は墨書により、刊本とは言い難い。

九十七、麦漂菴私記印譜(内) 稿 単

大本一冊。原装。茶色表紙。題簽無し。麦漂菴刻。内題「麦漂菴私記印譜」と墨書。柱記「陽華堂」と刻す。枠及び柱記は茶色摺り。紙文墨書。全十九丁。十五丁裏に「麦林舎中川乙由俳系 麦漂」と墨書する紙片を貼布。巻末に「

雞冠井保定藏書」と墨書。印風は方義雅体。

※麦漂は紙片にいう乙由系の俳人とある以外は未詳。旧藏者も俳人らしい。寛政前後の成か。

九十八、篆刻統譜(外) 稿 集

大本六卷一冊。改装。白茶表紙。題簽後補。中央無枠「篆刻統譜」と墨書。各巻毎に内扉あり、それぞれに題簽を左肩に備え。順に巻一「良山芙蓉款文銅印譜」(十四顆)、巻二「蝶菴印存」(四十七顆)、巻三「群芳印列」(四十二顆)、巻四「禮記篇名印譜 關雲山人」(四十六顆)、巻五「栗齋小寛木城印譜」(六十七顆)、巻六「(無題)」(四十一顆)。巻一末に「通計十三顆芙蓉軒藏印信南海阿部良山人鑲筆」。巻四末に「礼記篇名四十六章文久元年四月六日閑雲山人戲刀」。巻六末に「享永七年戊戌十一月廿三日應中谷正明右常印印」。無枠。印稿をそのまま貼布するものと、原鈐の紙片を貼布するものとあり。

※所収印人名は各巻外題にある如くで、巻三は中村長常、増雄一、田思敬、苗武穆、江忠淳、杜易春、雪嶮手吉、宅良、阪卯辰、栗陳清、春近方、吳寛、蝶菴、端隠、野鹿、桂園、笠山とあつて伊勢を中心とするか。

九十九、印譜(外) 稿

分形帖一帖。原装。紫色刷毛目表紙。題簽中央無枠「印譜石安叟署」。全十二折。紙文墨書。序跋等無し。用印集。※刻者未詳。前半八折は国枝老足、後半四折は月光寺重徳の用印集ゆえ、尾張印人の製か。近世末成。

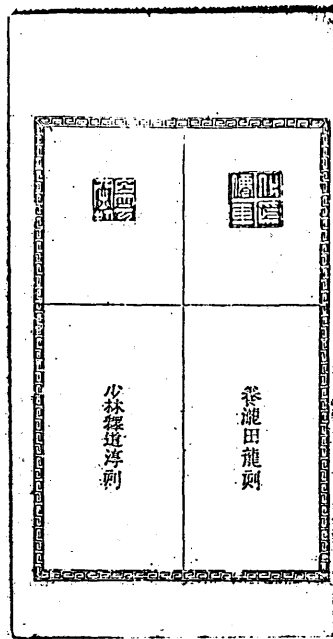
百、服部歴世印存(外) 稿 集

中本一冊。原装。緞子表紙。題簽左肩無枠「服部歴世印存」と墨書。全十五丁。巻末に「刀水君千澤 昭知二十五年十

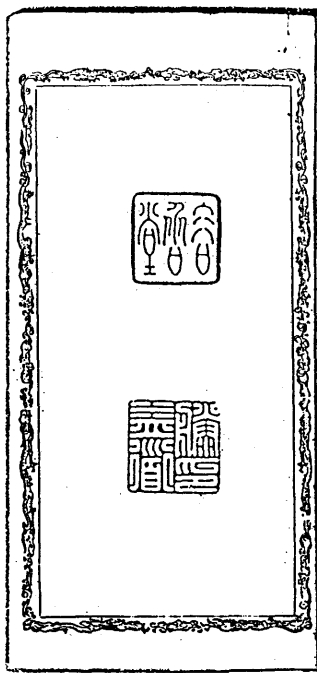
一月廿七日購於文行堂冬日手装 竹老人と墨書。用印某。
 ※服部南郭以下服部家歴世の所用印譜・南郭二顆、元立仲山
 十二顆、元定二顆、元雅小山十三顆、元濟十一顆、元彰南
 梁三十六顆。渡辺刀水が服部家蔵印を手捺し、竹清が装幀
 せしもの。

九州大学教授

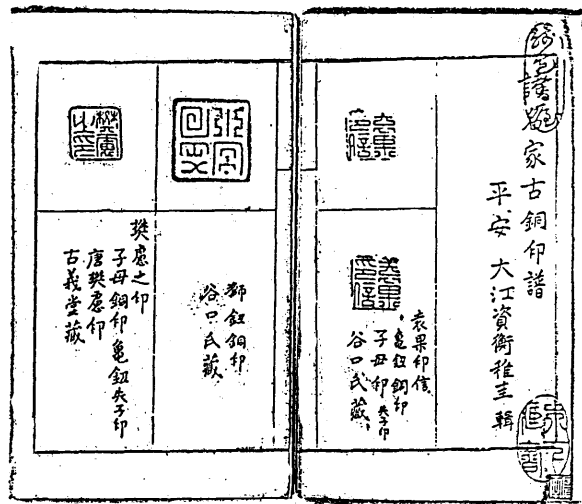
◀五十八、澧水同人印譜・上冊本文初丁表



◀八十六、勝益道印譜・乾冊五十三丁表



◀八十三、諸名家古銅印譜・初丁



◀八十三、一斛珠・丁冊初丁二丁表

